

HITACHI

Well-Being Design

株式会社 日立建設設計
Hitachi Architects & Engineers



Well-Being DESIGN

建築はもはや単なる器ではなく、人の健康・創造性・生産性を左右する重要な経営資源です。Well-beingを起点とした設計は、快適性の向上にとどまらず、人的資本の価値を最大化し、企業競争力の源泉となります。

1.なぜ今Well-beingが求められるのか

1-1.働き方・価値観の変化労働から「創造性・生産性」重視へ人材確保・定着が企業競争力に直結オフィス・研究施設も「選ばれる空間」が必要とされ、人的資本を最大化するインフラへ変化してきました。健康リスクの顕在化シックビル症候群ストレス・メンタルヘルス問題長時間滞在空間

（オフィス・工場・研究施設）の影響増大→建築環境が健康に与える影響が科学的に可視化

1-2.ESG・SDGs対応健康・福祉（SDGs 3）働きがい・経済成長（SDGs 8）WELL認証・CASBEEウェルネスオフィスなどの普及

→環境性能だけでなく「人の状態」まで評価対象に

建築設計に関連するWell-being一覧

認証制度	運営団体	対象	評価の主眼	
WELL Building Standard (WELL認証)	International WELL Building Institute (IWBI)	オフィス、商業施設、住宅、教育施設、医療施設など	利用者の健康・快適性・幸福度	★★★★★
WELL Health-Safety Rating	IWBI	既存建築物・施設	衛生管理、感染症対策、安全性	★★★★☆
Fitwel	Center for Active Design (CfAD)	オフィス、集合住宅、学校等	健康促進、運動促進、コミュニティ形成	★★★★☆
CASBEE-ウェルネスオフィス (CASBEE-WO)	住宅・建築SDGs推進センター (IBECs)	オフィス	健康性、快適性、知的生産性向上	★★★★☆
LEED v4/v5 (Indoor Environmental Quality)	USGBC	全用途	室内環境品質、健康性、快適性	★★★★★
BREEAM	BRE (英国)	全用途	健康とウェルビーイングを含む総合環境性能	★★★★☆
Living Building Challenge (LBC)	International Living Future Institute	全用途	健康・幸福・再生型デザイン	★★★★☆☆
SITES	Green Business Certification Inc. (GBCI)	ランドスケープ、都市空間	健康的な屋外環境・生物多様性	★★★★☆☆
RESET Air / RESET Water	RESET Standard	オフィス等	空気質・水質の継続モニタリング	★★★★☆☆
Health Building Certification	各国独自制度	オフィス等	健康経営支援、室内環境品質	★★☆☆☆☆

2.Well-Being DESIGN

あらゆる人が働きやすく生きがいを感じる持続可能な職場環境をデザインする

Physical 身体

心身ともに健やかでポジティブ活躍できる職場環境

空気質 (CO₂・VOC)

温熱環境 (温度・湿度・気流)

光環境 (自然光・概日リズム)

音環境 (騒音・遮音)

運動促進 (階段・動線計画)

→ 健康維持・疾病予防

Mental 精神

心理的な満足感や幸福感が得られる職場環境

Biophilic Design(バイオフィリックデザイン)*

開放感・安心感自然との接続

プライバシーと集中の両立色彩・素材・スケール感

→ストレス低減・快適感

※Biophilic Design：人間が本能的に自然とのつながりを求める性質 (Biophilia＝生命愛) を建築やインテリア都市空間の設計に取り入れる考え方

Social 社会

周囲との関係を通じて充足感が得られる職場環境

Serendipity(セレンディピティ)*コ

コミュニケーション促進偶発的な出会い

組織文化形成

→ 創造性・イノベーション創出

※Serendipity：偶然の出来事から価値ある発見や成果を得ること、または 思いがけない幸運な発見

ウェルビーイングな職場環境により好循環が生まれます

健康経営

健康管理を経営の視点で捉え
福利厚生の実施や柔軟な働き方の推進により業績を向上

リスクマネジメント健康起因の
欠勤・離職労災・コンプライアンスリスク

→Preventive Design*

※Preventive Design

問題や事故、健康被害、業務障害などが発生してから対処するのではなく、あらかじめリスクを予測し、その発生を未然に防ぐための設計手法

業務効率向上

身体的・精神的に健康状態を保つことで業務効率を向上させ自動的に職場環境を活性化

生産性向上

知的労働では人件費
＝コストの大半生産性1～5%※の改善でも建設コストを上回る価値

※条件によって数値は変化
自然光 → 作業効率向上

良好な空気質 → 認知機能改善

→建築投資が人的ROIに転換

エンゲージメント向上

組織とのつながりを感じやりがいを持つことにより従業員の満足度と職場への帰属意識を向上

研究・製造施設への波及例
高度環境施設および精密制御と人間快適性の両立による長時間作業による疲労軽減

例 House in House設計

親和性内外環境の分離 + 快適環境の最適化コア空間の安全性

→周辺空間のWell-being強化

人材確保・地域貢献

生きがいを感じる職場は人材の定着と獲得につながり地元雇用は地域とのより良い関係を構築

人材戦略 (採用・定着) 働く環境が企業ブランドになる若年層ほど環境価値に敏感

→「この会社で働きたい」を生む空間設計

Well-Being 実績事例

建設機械メーカー事務所

概要

- ・計画地：茨城県
- ・竣工年：2022年1月
- ・階数：地上7階
- ・延面積：約26,000㎡

課題

部署間での希薄な関係性の解消

- ・分散した研究開発機能の集約
- ・機密重視によるコミュニケーション不足
- ・気分転換しやすい休息環境の欠如

解決策

多様な空間での知的生産性向上

- ・多様な働き方が選択できるABW※の導入
- ・フロアを横断し偶発的な交流を生む通路
- ・上下階のつながりを強化する吹抜け空間
- ・リフレッシュを促すバルコニーやラウンジ



2024年 第37回茨城建築文化賞

※ABW：業務に応じて場所を自由に選択できる柔軟な執務環境

株式会社 日立建設設計

東京都台東区東上野二丁目16番1号〒110-0015
Tel: +81-3-6757-7100
www.hae.co.jp

総合電機メーカー研究所

概要

- ・計画地：東京都
- ・竣工年：2019年3月
- ・階数：地上4階
- ・延面積：約16,000㎡

課題

オープンノベーション環境の強化

- ・施設用途に特有の閉鎖的な研究環境
- ・外部企業・顧客との共同開発の場が不足
- ・異分野連携・迅速な実証環境の不備

解決策

自然と共生し協創を促進する環境

- ・緑豊かな自然環境を活かした共有スペース
- ・協創パートナーが自由に使える上階エリア
- ・偶発的な出会いと交流を促す吹抜階段
- ・多様な交流を生むコミュニケーションコリドー



2019年 グッドデザイン賞
/日経ニューオフィス賞 クリエイティブオフィス賞

電気機器メーカー事務所＋工場

概要

- ・計画地：群馬県
- ・竣工年：2025年2月
- ・階数：地上3階
- ・延面積：約9,000㎡

課題

既存工場における開発環境の改善

- ・手狭になった既存施設の増床
- ・世界トップクラスの開発環境の整備
- ・人員増加を想定した働きやすさの向上

解決策

豊かで健康的な執務環境の提供

- ・ダイバーシティに配慮したストレスのない環境
- ・業務に合わせて場所を選択できる執務空間
- ・コミュニケーションを活性化するワークラウンジ
- ・マグネット効果の高いリフレッシュ空間



2025年 CASBEEウェルネスオフィス
Aランク認証取得

※健康や快適性を高めるための仕様や性能、取組を評価する認証

※表紙写真は、日立建機株式会社 土浦工場内施設エンジニアリング棟 Orange Innovation Plaza